

財団法人 逸翁美術館

ITSUO ART MUSEUM



逸翁美術館 館藏品

館蔵の美術工芸品5000余点は、古筆、古経、絵巻、中近世の絵画(特に蕪村・呉春・円山四条派のコレクション)、国内はもちろん中国・朝鮮・オリエント・西洋を含む陶磁器、日本・中国の漆芸品に及び、茶人逸翁の美術への想いと茶道への深い理解を語るものである。

全体を通じて書画約1600点、陶磁器約2500点、その他1000点、うち重要文化財15点、重要美術品19点。



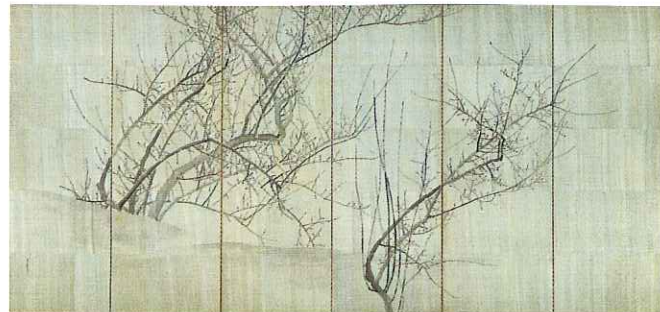
重要文化財 豊臣秀吉像画稿 狩野光信筆 一幅 桃山時代



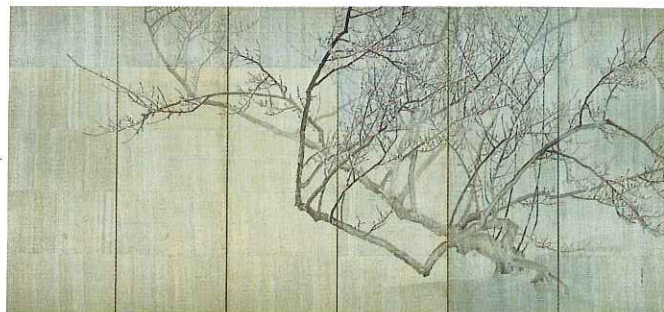
重要文化財 佐竹本三十六歌仙切 藤原高光 一幅 鎌倉時代



重要文化財 奥の細道画卷(部分) 与謝蕪村筆 江戸時代



重要文化財 白梅図屏風 六曲一双 呉春筆 江戸時代



重要美術品 紺紙金銀字交書賢却経 卷第十(中尊寺経)(部分) 平安時代



重要美術品 露殿物語絵巻 下巻(部分) 江戸時代



重要文化財 花鳥時絵螺鈿洋櫃 桃山時代



重要文化財 谷水帖 石山切 伊勢集 平安時代



五彩蓮華文呼継茶碗 逸翁銘「家光」 元時代



志野八橋図皿 桃山時代



桐文時絵螺鈿雪吹 江戸時代



青花高砂花入(古染付) 景德鎮窯 明時代



鍔絵染付流水文手桶水指 尾形乾山作 江戸時代



逸翁肖像

小磯良平画(1954)

小林一三と逸翁美術館

財団法人逸翁美術館は、小林一三翁(1873.1.3~1957.1.25)の雅号「逸翁」を冠して館名とし、旧邸「雅俗山荘」をそのまま展示の場として、1957年10月に開館しました。収蔵する美術品とともに、その佇まいもまた、翁を偲ぶもっともよき記念物といえましょう。

翁は明治六年、山梨県韮崎市(現在)に生まれ、明治・大正・昭和の実業界で活躍し、阪急電鉄をはじめ、阪急百貨店、東宝などの阪急東宝グループを起し、太平洋戦争直前の難局に商工大臣を、戦後の混乱期に国務大臣復興院総裁を歴任しました。

しかし、それらの業績とともに、翁の人となりを語るものに、宝塚歌劇の創設と、演劇・映画における芸術活動、「小林一三全集」七巻におよぶ著述、さらに茶道における大乘茶道の提唱と、実践があります。

逸翁のコレクションは、二十歳代から一部の収集が始まっていますが、茶の道に入るや天性の審美眼はいよいよ磨



広間

かれ、厳しい研究家の態度で一品一品に対し、いつか収集も数千点に達しました。

翁は日本的な美術鑑賞の場である茶会においてこれらを披露する一方、文化の向上に資する一般公開を計画しましたが、実現を前に他界、その遺志により当美術館を設立したものです。



正門



そくあん

茶室「即庵」

伝統的な三畳台目の茶室で、逸翁はその西と南側に敷瓦の土間をめぐらせ、椅子での喫茶もできる新方式を考案した。伝統と近代生活との見事な調和をはかった茶室として、昭和の名席の一つに挙げられている。扁額は翁の茶友畠山一清翁の書である。

茶室「費隠」

もと京都の寺にあったと伝えられる二畳の茶室で、近衛文麿公の命名になり、扁額も公の筆である。戦後南の本邸に移されたが、平成四年に再び当雅俗山荘内に移築された。

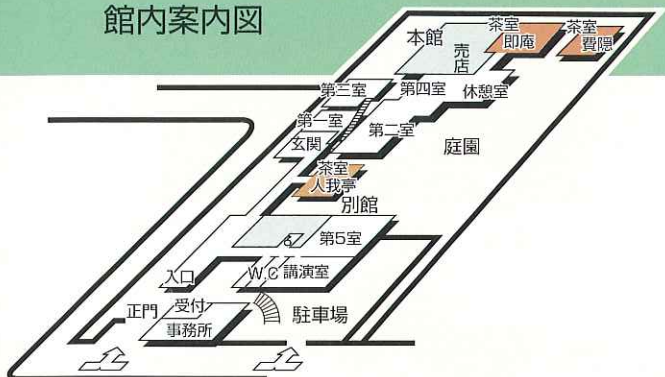


にんがてい

茶室「人我亭」

昭和39年に岡田孝男氏の指導により竣工した四畳半の茶室。翁の生前、本邸内に同名の茶室があり、その名を写したもの。扁額は翁の茶友松永安左エ門翁の書である。

館内案内図



入館料 一般700円、大・高校生500円、中・小学生200円

団体割引一般、550円(20人以上)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館、火曜日休館)

年末年始・展示替え期間(年間4回)

友の会 会員を募集しています。詳細につきましては、事務所までお問い合わせ下さい。

施設利用 貸茶室については事務所にお問い合わせ下さい。

交通案内

池田駅下車
山手へ800m

阪急バスご利用の場合
池田駅③のりばより
五月丘小学校前・下車



財団法人 逸翁美術館

ITSUO ART MUSEUM

〒563-0053池田市建石町7-17

TEL 072-751-3865

FAX 072-751-2427

<http://www.itsuo-museum.com/>

